

# 令和4年度 施設関係者評価および自己評価報告書

社会福祉法人 開花 認定こども園 わらべのその

## 1.園の保育目標

・生きる力の基礎を育み、さまざまな人とのかかわりを深める中で、人への信頼感と自己の主体性の形成を育てる。・認めあい、高めあい、育ちあうよい子、強い子、やさしい子の育成・いろいろな取り組みの中や異年齢児の交流を通して、子どもたち同士で学びを見つけ、教えあい、やさしさやコミュニケーション力を育む。・子どもたちの自立と社会参加を一層推進していくために、子どもたちの十分な学びを確保し、一人一人の子どもの状態や発達の段階に応じた指導や支援を一層充実できるよう全職員が教育・保育・インクルーシブ教育・就学前教育の向上につとめる。・非常時に備え避難訓練・消防訓練・救命救急の訓練の強化をおこなう。・コロナ渦における感染症予防対策につとめる。・保護者のニーズを理解し、誠意を持った対応をして行きながら信頼関係を築いていく。

## 2.本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した評価の具体的な目標や計画

・「10の姿」を踏まえ、一人一人の成長を集団の力につなげていく・職員は一人一人に合わせた援助をしており、保護者アンケートの評価においても、よりきめ細やかな個別対応へのニーズが高いことを念頭に、個別対応、保護者支援を充実させる・節分に向けた取り組みでは松江市の誤食事故をふまえ、職員間の共通理解を高めながら安全第一に行う。・コロナ渦により保護者参加行事が少ない中、保育教育の取り組みの様子や、子どものエピソードを丁寧にあゆみノートに記載したり、園便りに掲載したり、壁新聞にしたりして保護者支援、現況報告をする。・避難訓練や不審者訓練、ヒヤリハットの記入及び周知徹底に取り組んでいるが、保護者に伝わっていない一面があるため、保護者周知について新たに取り組む。特別支援児のサポートプランを職員間で共有し、一貫した対応をしながらもそれぞれの分掌が計画に沿って活動すること。・食育関連の掲示は途切れること無く、清潔安全、食材の吟味、食育活動において保護者アンケートの評価は高く、更なる向上を目指す。園内研修、園外研修、公開保育において環境構成に対する職員の意識づけを深める。職員は自園を見る目を養い、環境全般の改善、保育教育の内容や改善に主体的に取り組んでいくことを目標とする。また、学校関係者評価を受けて課題を確認し、その改善に取り組む。

### 3.施設関係者による評価結果

No.	評価項目	評価結果(%)		
		A	B	C
1	意欲	71	29	0
2	研究・研修	63	35	2
3	組織力	52	47	0
4	安全・環境	55	42.5	0
5	指導の工夫・改善	63	37	0
6	生活習慣指導	57	40	1

No.	評価項目	評価結果(%)		
		A	B	C
7	信頼性・連携	37	58.5	4
8	情報の提供	35	58.5	6.5
9	地域・社会との関わり	15	74	11
10	食育の推進	57.5	41.5	1
11	幼小の接続	32	62	4

### 4.自己評価（職員）による評価の結果

No.	評価項目	評価結果(%)		
		A	B	C
1	保育・教育の計画性	64	33	3
2	保健管理	58	23	10
3	安全管理	75	22	3
4	特別支援教育	54	38	8
5	組織運営	65	31	4
6	研修（資質向上の取組）	50	34	16

No.	評価項目	評価結果(%)		
		A	B	C
7	教育目標・学校評価	38	38	25
8	情報提供	38	20	3
9	保護者・地域住民との連携	50	31	19
10	子育て支援	50	22	28
11	教育環境整備	50	50	0

「3.4.」の評価結果の表示

評価	とてもそう思う・実施、達成	A
	そう思う・一部改善が必要	B
	そう思わない・未実施	C

## 5.施設関係者からの意見

職員は保育教育案を立案実践し、更なる向上に向けて反省改善を考え、保育教育環境を整えながら子ども一人一人がより多くの経験を積めるように工夫を重ねているところが賛同できる。法人全体で新型コロナウイルス感染症対策に取り組み、また気象や環境状況に応じた健康について学びながら子どもへの視診に重点をおいた取り組みをしている。SDGs：人が人らしく生きていくこと・安心安全な暮らしができること・地球に住み続けられることを考え、できることから実践している。職員会では職員間の意見交換や研修会報告を通して専門分野における知識不足や経験不足を補っている。一人一人の子ども、職員を大切に運営されている。